

研究プロジェクト成果報告書

研究課題「地域の社会科教育における臨床的課題解決に向けた協働的実践研究」

研究期間 平成26年度～平成27年度

研究代表者：人文・社会教育学系社会系コース 教授 茨木 智志

研究分担者：人文・社会教育学系社会系コース 教授 志村 喬（副代表）

人文・社会教育学系社会系コース 講師 中平 一義

上越市立大手町小学校 教諭 朝井 宜人

上越市立国府小学校 教諭 荒井 隆浩

上越市立直江津小学校 教諭 五十嵐 徳也

糸魚川市立能生小学校 教諭 池田 利充

妙高市立新井南小学校 教諭 近藤 克彦

糸魚川市立青海小学校 教諭 坂口 敏生

上越市立大潟町小学校 教諭 坂森 弘明

長岡市立富曾亀小学校 教諭 長橋 俊文

上越教育大学附属小学校 教諭 南雲 民人

上越市立大潟町小学校 教諭 渡邊 卓司

加茂市立石川小学校 教諭 渡邊 伸明

上越市公文書センター 指導主事 岩野 学

上越教育大学附属中学校 教諭 坂田 和也

上越市立大潟町中学校 教諭 仙田 健一

上越教育大学附属中学校 教諭 田口 秀行

糸魚川市立糸魚川中学校 教諭 中川 大志

上越市立大潟町中学校 教諭 長野 朋水

上越市立春日中学校 教諭 柳澤 一輝

研究協力者：新潟県社会科教育研究会会長・妙高市立妙高小学校 校長 望月 正樹

新潟県社会科教育研究会副会長・上越市立大潟町中学校 校長 陸川 晃

前橋市立山王小学校 教諭 大崎 賢一

上越教育大学大学院修士課程社会系コース大学院学生 室井 章太

上越教育大学大学院修士課程社会系コース大学院学生 栗田 明典

はじめに

本報告書は、2014～2015（平成26～27）年度上越教育大学研究プロジェクトにおける研究課題「地域の社会科教育における臨床的課題解決に向けた協働的実践研究」に関する研究成果を報告するものである。

2016年4月1日

研究代表者：茨木智志

1 本研究プロジェクトの目的と背景

本研究プロジェクトの目的は、地域の社会科教育が持つ臨床的課題を探り、その解決のための大学教員と小学校・中学校教員による協働的実践研究を、新潟県上越を中心に進めることにある。

社会科は、すぐれて地域的な性格を有する教科である。地域で暮らす児童・生徒の身の周りから出発して世界を見て行くと同時に、逆に世界の視点から地域の中の児童・生徒の生活を捉え直すことが求められてきた。新潟県上越には、戦後の初期社会科の時期から、教員の地域ぐるみでの取り組みにおいて、このような課題に向き合ってきた歴史がある。江口武正の『村の五年生』（1956年）をはじめとする「上越教師の会」の一連の活動は高く評価されている（山本2007）。加えて、「新潟県社会科教育研究会」が新潟県上越を中心に、地域の研究と学習指導を両輪とする研究会開催、研究紀要発行、巡検実施を継続してきた。研究紀要（『社会科研究紀要』）は今年度で第50集、巡検は1953年以来第63次に至っている。これらの民間教育団体は地域での活動を全国に発信するという教育研究を担いつつ、一方で、地域の若手教員を中心とした教員の再研修においても重要な役割を果たしてきた。

教員の養成は、大学の任務である。本学においては、新潟県上越という地において、地域に根ざした社会科教員の養成に努めてきた（朝倉編1989）。近年においても、社会科教育実践を担う資質をいかに社会系コースとして向上させるかを模索しており（茨木2015）、社会科教員の拠り所となるべき教科専門と教科教育を架橋した社会科内容学の構築も進められている（浅倉他2015・2016）。さらに本学社会系コースを中心とする「上越教育大学社会科教育学会」が例会・研究大会開催、学会誌発行等を通じて社会に関わる教育と研究を推進してきた。30回を数える研究大会の参加および学会入会は広く地域の教員に開かれており、地域の教員の研鑽の場としても活用されてきた。

このように地域の教員（教育団体）と大学が有機的な連携を継続することで、社会科教員の養成と再研修がなされてきた。しかし、その一方で小学校・中学校の教員をとりまく状況は、教師としての本務に専念しづらい傾向が強まっていることも厳然たる事実である。このような中で、地域の社会科教育を発展させていくためには、大学と地域の教員（教育団体）がいかに連携して、地域の課題を見出し、解決していくことができるのか、その方策をともに探っていくことが必要となる。

そこで、上記目的達成に近づくため、①地域の小学校・中学校の若手を中核とした社会科教員を構成員（研究分担者）として、各自の社会科授業開発のための研鑽の機

会を、本研究プロジェクトを通じて大学から提供・共有し、②地域の教育団体と密接に連携して構成員各自の再研修の場とすると同時に、本学の教員養成や教育研究の場としても活用し、③地域の社会科教育の課題をともに見出し、その課題解決のための道筋を探っていくこととする。以上の活動により、④大学の教員・学生と地域の教員との協働的実践の場を地域に作り上げていくことを目指す。

なお、上越教育大学社会科教育学研究室では、「地域の社会科教育実践の臨床的課題と包括的改善方策」の研究を2012～2013（平成24～25）年度上越教育大学研究プロジェクトとして実施した（上越教育大学社会科教育学研究室2014）。本研究プロジェクトは、この研究成果を継承するものである。

2 本研究プロジェクトの研究組織と研究実施内容

2-1 研究組織

本研究プロジェクトの研究組織は以下のとおりである。

研究代表・副代表・総括者（大学社会科教育学研究室）

茨木 智志（代表）	上越教育大学大学院学校教育研究科（社会系コース）教授
志村 喬（副代表）	上越教育大学大学院学校教育研究科（社会系コース）教授
中平 一義	上越教育大学大学院学校教育研究科（社会系コース）講師

研究分担者（小学校・中学校教員）

朝井 宜人	上越市立大手町小学校教諭
荒井 隆浩	上越市立国府小学校教諭
五十嵐 徳也	上越市立直江津小学校教諭
池田 利充	糸魚川市立能生小学校教諭
近藤 克彦	妙高市立新井南小学校教諭
坂口 敏生	糸魚川市立青海小学校教諭
坂森 弘明	上越市立大潟町小学校教諭
長橋 俊文	長岡市立富曾亀小学校教諭
南雲 民人	上越教育大学附属小学校教諭
渡邊 卓司	上越市立大潟町小学校教諭
渡邊 伸明	加茂市立石川小学校教諭
岩野 学	上越市公文書センター指導主事
坂田 和也	上越教育大学附属中学校教諭
仙田 健一	上越市立大潟町中学校教諭
田口 秀行	上越教育大学附属中学校教諭
中川 大志	糸魚川市立糸魚川中学校教諭
長野 朋水	上越市立大潟町中学校教諭
柳澤 一輝	上越市立春日中学校教諭

研究協力者（新潟県社会科教育研究会）

望月 正樹 新潟県社会科教育研究会会長・妙高市立妙高小学校校長
 陸川 晃 新潟県社会科教育研究会副会長・上越市立大潟町中学校校長
 研究協力者（現職派遣大学院生）
 大崎 賢一 前橋市立山王小学校教諭
 室井 章太 上越教育大学大学院修士課程社会系コース大学院生（2015 年度から）
 栗田 明典 上越教育大学大学院修士課程社会系コース大学院生（2015 年度から）

2-2 研究実施内容

本研究プロジェクトの具体的な研究実施内容は以下の諸点である。

- (1) 課題の明確化と解決方法の策定のための優れた社会科授業実践と社会科研究に対する参観と検討、もしくは発表
- (2) 社会科教育実践に関する地域へのアンケート調査、および、その分析と考察による課題の抽出
- (3) 授業公開または実践報告に対する相互の批判的討議による社会科改善の方策の検討
- (4) 上記の諸成果に基づく社会科授業実践、分析結果等の提示

3 研究会の開催および研究分担者の派遣等の記録

本研究プロジェクトにおいて開催した研究会および研究分担者の派遣等は、以下のよう実施された。

2014（平成 26）年度

- 8 月 9・10 日 日本地理教育学会第 64 回大会（横浜国立大学教育人間科学部）派遣
- 11 月 8 日 第 1 回研究会【研究計画検討】開催（上越市市民プラザ）
- 11 月 15 日 東京学芸大学竹早地区附属学校園公開研究会（同校園）派遣
- 2 月 12・13 日 筑波大学附属小学校授業公開・初等教育研修会（同校）派遣
- 3 月 17 日 第 2 回研究会【研究中間報告】開催（社会科授業検討会、上越市立春日中学校）

2015（平成 27）年度

- 6 月 6 日 第 3 回研究会【研究中間報告】開催（新潟県柏崎市）
- 7 月 23・24 日 筑波大学附属小学校第 16 回初等社会科授業研究会（同校）派遣
- 7 月 27・28 日 北海道教育大学附属札幌中学校教育研究大会（同校）等派遣
- 10 月 24 日 第 4 回研究会【中間発表会】開催（社会科教育実践研究発表会、本学学校教育実践研究センター）（上越教育大学社会科教育学会第 30 回研究大会第四分科会）

- 11月7・8日 日本社会科教育学会第65回全国研究大会（宮城教育大学）派遣
 11月14日 第5回研究会【中間発表会】開催（社会科教育実践発表会、上越市教育コラボ2015：リージョンプラザ上越）
 2月11・12日 筑波大学附属小学校学習公開・初等教育研修会（同校）派遣

※上記の研究活動と並行して、アンケート調査等が実施された。



社会科教育実践発表会・上越市教育コラボ2015
 （2015年11月14日：リージョンプラザ上越）

4 報告書の発行

本研究プロジェクトでは、研究成果を次の報告書として発行した。

- ・上越教育大学社会科教育学研究室編集・発行
 『新潟県上越地方における社会科教育実践の臨床的課題の探究 —2014～2015（平成26～27）年度 上越教育大学研究プロジェクト— 「地域の社会科教育における臨床的課題解決に向けた協働的实践研究」報告書』
 2016年3月、全98頁

本書は以下のような内容で構成されている。

I 研究の概要	p.1
上越教育大学社会科教育学研究室 茨木智志・志村喬・中平一義	
II 現職教員による実践研究の成果報告	
1 地理的な空間認識をはぐくむ活動 ～小学校3年生「私たちの上越市」の実践から～	p.5
上越市立大手町小学校 朝井宜人	
2 上越教育大学との連携を活かした地理教材の作成 ～新潟県社会科教育研究会『上越市全図』の活用に向けた取組より～	p.9
上越市立国府小学校 荒井隆浩	
3 方位や位置の認識を発達させるための手立て ～小学校3年 「六日町の絵地図をかこう」の学習を通して～	p.13

	上越市立直江津小学校 五十嵐徳也	
4	子どもたちの実感が伴った社会科学習に向けた総合的な学習との連携の可能性 —第4学年「水はどこから」の学習を通して—	p.17
	糸魚川市立能生小学校 池田利充	
5	主体的に追求し、社会事象の意味を実感としてとらえさせる指導過程の工夫 ～4年「山ろくを流れる上江用水」と3・4年「ごみの処理と利用」を通して～	p.21
	妙高市立新井南小学校 近藤克彦	
6	多様な資料を活用した、小学校5年情報に関わる学習の展開	p.25
	糸魚川市立青海小学校 坂口敏生	
7	地域の工場見学を生かした一実践 ～自動車工場との生産比較から～	p.29
	上越市立大潟町小学校 坂森弘明	
8	よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる指導の工夫 —小学校第5学年「水産業のさかんな地域」の実践を通して～	p.33
	長岡市立富曾亀小学校 長橋俊文	
9	地図を読む楽しさを味わい、地図の見方をひろげる —小学校4年「地図紀行」の実践より—	p.37
	上越教育大学附属小学校 南雲民人	
10	思考を深めるための関連図づくり ～小学校第5学年「情報化した社会と私たちの生活」の実践～	p.41
	上越市立大潟町小学校 渡邊卓司	
11	資料を活用して、考えを表現する力を高める社会科学習 ～小学校5年「これからの食料生産を考える」における討論活動を通して～	p.45
	加茂市立石川小学校 渡邊伸明	
12	地域アーカイブズの利活用 ～上越市公文書センターの所蔵資料の紹介～	p.49
	上越市公文書センター 岩野学	
13	裁判員制度を考える —情報と他者との関わりを軸に—	p.53
	上越教育大学附属中学校 坂田和也	
14	地域から考える防災教育 ～ハザードマップづくりを通して～	p.57
	上越市立大潟町中学校 仙田健一	
15	平和的解決とは —国際社会が抱える諸問題を通して—	p.61
	上越教育大学附属中学校 田口秀行	
16	「学び合い」による授業事例 —中学校地理的分野における「アジア州」の実践—	p.65
	糸魚川市立糸魚川中学校 中川大志	

17	「学び合い」の視点を取り入れた中学校社会科授業 ～1年「ヨーロッパ州 ― 国どうしの統合による変化 ―」の実践～	p.69
	上越市立大潟町中学校 長野朋水	
18	新聞活用を通して、地方自治の在り方を見つめ直す実践(3年生・公民的分野)	p.73
	上越市立春日中学校 柳澤一輝	
Ⅲ アンケート分析結果の報告		
	「法教育実践と社会科教師の実態に関する調査研究」アンケート分析結果	p.77
	上越教育大学 中平一義	

本書の第Ⅰ部が研究の概要報告、第Ⅱ部が研究分担者である18名の現職教員の実践研究報告、第Ⅲ部が大学教員による地域の教員を対象としたアンケート結果報告である。

発行した報告書は、上越地域の全小中学校をはじめ各方面に配布した。本書が盛り込んでいる、これらの実践研究および法教育実践に関わるアンケート結果の報告は、地域の社会科教育のみならず、全国においても活用が期待される。

また、本研究プロジェクトが連携している新潟県社会科教育研究会の主催する「社会科授業実践研修会」(2016年2月20日)、同会研究紀要『社会科研究紀要』(第49集、2015年3月)等においても本研究プロジェクトの成果の一部を発表している。

おわりに

これまでに記した本研究プロジェクトの成果に関わり二点申し述べる。

第一に、本研究の主眼であった大学と地域学校の教員との連携や協働の重要性である。本研究においても一定の成果をあげたものと認められるが、今後いかに大学として継続していくことができるかが課題となる。

第二に、上記に関連して、本研究への大学内外の協力が不可欠であった点である。学外では、地域の小中学校教員を中心とする新潟県社会科教育研究会から全面的なご協力を賜った。また学内では佐藤芳徳学長をはじめ、研究連携課・財務課のきめ細かい配慮と支援を頂いた。厚く御礼を申し上げます。本研究プロジェクトは大学と地域との連携や協働の在り方を示す一つのモデルをなすものとする。上述した第一の点と関わり、大学としての継続が求められよう。

文献

朝倉隆太郎編(1989)『地域に学ぶ社会科教育』東洋館出版。

浅倉有子他(2015)『教科内容構成「社会」』上越教育大学カリキュラム企画運営会議(2014年初版)。

浅倉有子他(2016)『教科内容構成特論「社会」』上越教育大学カリキュラム企画運営会議。

茨木智志（2015）「教員養成教育における社会科授業力形成—上越教育大学の社会系コースでの取り組みを事例として—」（梅津正美他編『教育実践学としての社会科授業研究の探求』風間書房）。

上越教育大学社会科教育学研究室（2014）『新潟県上越地方における社会科教育実践の実態と臨床的課題（平成 24～25（2012～2013）年度上越教育大学研究プロジェクト「地域の社会科教育実践の臨床的課題と包括的改善方策」報告書）』。

上越教育大学社会科教育学研究室（2016）『新潟県上越地方における社会科教育実践の臨床的課題の探究—2014～2015（平成 26～27）年度 上越教育大学研究プロジェクト— 「地域の社会科教育における臨床的課題解決に向けた協働的実践研究」報告書』。

山本友和（2007）「初期社会科の実践—『村の五年生』の分析を中心に—」（二谷貞夫他編著『「上越教師の会」の研究』学文社）。